



全国から代議員 602 名、理事・役員や来賓・共同組織の方々を含め総員 850 名が参加して盛大に行われ、香川県連を代表して参加させていただきました。私は 2 度目ということもあり、だいたいどんな流れかは分かっていたので、自分自身 4 年前とは違い、より積極的に議論に参加したいと思って参加しました。

3 日間で本会議と分散会と合わせて計 920 本の発言がありました。私の参加した第 2 分散会では、福島の代議員より、「復興住宅の着工が遅れており仮設からたくさんの方がまだ出られていない」現状の話や大阪府全体の約 6 割に当たる広さの土地に 3 年間まだ誰も住むことができていないこと、子供たちは友人、先生、学校が奪われ県立高校 5 校は募集を打ち切り再開のめども立っていないこ

となどが発表されました。中でも一番ショッキングだったのはいわき市に避難している人の車のガラスが割られたり、中傷落書きがされたりと、本来力を合わせてやっていかなくてはならない被害者同士がいがみ合っている異常な状態が起きているということでした。

この 3 日間で全国の様々な取り組みや成果の報告を聞くことができたと同時に、「民医連」という明確な目的を持つ運動体を通して全国の連帯の強さと志の強さに触れることができました。参加者それぞれの立場でたいへんな状況と日常奮闘していることと思いますが、それでも頑張れるのは全国にこれだけの仲間がおり、大変なのは自分だけじゃないんだという連帯感なのだと感じました。

それと後継者の問題はどこも悩ましきテーマでした。若い職員を中心になかなか「民医連マインド」の浸透が難しく、どのように行っていけばいいのか頭を悩ませている県連も多い中、香川で行った全常勤職員を対象にした「社保学校」は珍しい試みでした。他県連と比べると規模も小さく理事もなかなか出せない現状ですが、このような取り組みは他県に先んじるものでした。これからも委員会を中心にコツコツと取り組んでいかなければならないと思いました。

(高松協同病院地域ケア部 藤原勝之)

全日本民医連第 41 回定期総会 (2/27~3/1 長野) に参加して

私は招待を受け、オブザーバーで参加しました。総会初日は藤末会長が挨拶し、長野厚生連佐久総合病院の伊藤敏統院長、日本共産党の市田忠義副委員長など来賓の挨拶の後、長瀬事務局長が理事会報告を行いました。夜には記念講演があり、伊藤真氏 (弁護士・伊藤塾塾長) が「今、憲法を学ぶ～憲法のいきづく国にするために～」と題して 2 時間近くに渡って講演しました。

2 日目は 13 の分散会に分かれて討議しました。私は第 5 分散会に出席、「共同組織」の立場からの発言を求められ、日頃感じていることなどを述べました。

3 日目は再び、全体会を再開。冒頭、医療福祉生協連の藤原高明会長が来賓あいさつ、「安倍内閣の暴走を食い止めるために連帯して闘おう」と呼びかけました。香川県連からは 4 名の代議員が出席。原田医師が 3 日目の全体会で発言し、「医局で毎朝方針案を読み合わせしている」と述べ、医師研修など、困難ななかでの取り組みなどについて報告しました。

総会は討論の後、長瀬事務局長がまとめの報告を行いました。同氏はこの中で、9 月に開かれる「共同組織全国活動交流集会 in 神戸」に触れ、「研修医、奨学生、新入職員など若い職員が参加し、共同組織の活動に学んでほしい」と訴えました。

今回の総会の特徴は役員改選で、12 年ぶりに事務局長が交代し、理事も大幅に代わり、平均年齢が 9 歳も若返ったことです。香川医療生協も世代交代が必要です。

3 日間の討論に参加して、医療・介護始め、平和・社会保障問題、基地問題、そして東日本大震災支援、原発問題と幅広い活動に取り組んでいる代議員の発言に感動しました。朝 8 時から晩 7 時過ぎまでという長時間の討議で疲れましたが、実りある総会参加でした。

運動方針にあるように「共同組織への積極的な参加を全職員の課題」として地域に入り、活動することをともに実践しましょう。「40 名参加で神戸集会の成功を！」

(香川医療生協常務理事 間嶋啓)

